

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の設置									
フリガナ設置者	ガッコウキンジョウ キンジョウガクエン 学校法人 金城学園									
フリガナ大学の名称	キンジョウガク 金城大学 (Kinjo University)									
大学本部の位置	石川県白山市笠間町1200番地									
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を養い、文化の向上及び社会の福祉に寄与する人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	看護に関する領域の専門性を高め、健康の維持・増進等も含む高度化、多様化する看護業務に対応可能であり、医療・福祉関係職員との適切な連携がとれ、医療現場において指導的役割を果たせるような人材養成を目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	看護学部 [Faculty of Nursing]						年月 第 年次	石川県白山市笠間町 1200番地及び 石川県白山市倉光一丁目 250番地		
	看護学科 [Department of Nursing]	4	80	—	320	学士(看護学)	平成27年4月 第1年次			
計		80	—	320						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	社会福祉学部社会福祉学科〔定員減〕(△40)(平成27年4月) 大学院リハビリテーション学研究科リハビリテーション学専攻 (5) (平成26年5月認可申請)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	看護学部看護学科	講義	演習	実習	計	127単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任	教員	
	新設分	看護学部看護学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	人	
			人	人	人	人	人	人	人	
			14 (10)	2 (2)	5 (3)	4 (4)	25 (19)	5 (3)	25 (6)	
	計		14 (10)	2 (2)	5 (3)	4 (4)	25 (19)	5 (3)	25 (6)	
	既設分	医療健康学部理学療法学科	6 (6)	5 (5)	4 (4)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	6 (6)	
			医療健康学部作業療法学科	4 (4)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
			社会福祉学部社会福祉学科	19 (19)	8 (8)	3 (3)	5 (5)	35 (35)	3 (3)	56 (56)
			計	29 (29)	15 (15)	9 (9)	7 (7)	60 (60)	3 (3)	65 (65)
	合計		43 (39)	17 (17)	14 (12)	11 (11)	85 (79)	8 (6)	90 (71)	
教員以外の職員の概要	職種		専任	兼任	計					
	事務職員		24 (24)	6 (6)	30 (30)					
	技術職員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図書館専門職員		2 (2)	1 (1)	3 (3)		大学全体			
	その他の職員		2 (2)	0 (0)	2 (2)					
計		28 (28)	7 (7)	35 (35)						

事 項		記 入				備 考				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	金城大学短期大 学部と共用 借用面積： 2,337.26㎡ 借用期間： 50年				
	校 舎 敷 地	2,337.26 ㎡	84,538.00 ㎡	0 ㎡	86,875.26 ㎡					
	運 動 場 用 地	0 ㎡	18,511.00 ㎡	0 ㎡	18,511.00 ㎡					
	小 計	2,337.26 ㎡	103,049.00 ㎡	0 ㎡	105,386.26 ㎡					
	そ の 他	0 ㎡	9,197.81 ㎡	1,978.00 ㎡	11,175.81 ㎡					
	合 計	2,337.26 ㎡	112,246.81 ㎡	1,978.00 ㎡	116,562.07 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	金城大学短期大 学部と共用 土地の借用面積： 2,337.26㎡ 借用期間： 50年				
		18,604.98 ㎡ (18,604.98 ㎡)	2,929.48 ㎡ (2,929.48 ㎡)	8,911.94 ㎡ (8,911.94 ㎡)	30,446.40 ㎡ (30,446.40 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	36 室	21 室	16 室	1 室 (補助職員0人)	0 室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		看護学部看護学科		23 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	金城大学短期大 学部との共用分を 含む 図書101,000冊 学術雑誌321種 視聴覚資料1,382 点		
	看護学部看護学科	11,079 [1,173] (10,199 [1,033])	115 [33] (115 [33])	7 [7] (7 [7])	341 (341)	3,037 (3,037)	58 (58)			
	計	11,079 [1,173] (10,199 [1,033])	115 [33] (115 [33])	7 [7] (7 [7])	341 (341)	3,037 (3,037)	58 (58)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		金城大学短期大 学部と共用 笠間キャン パス:673.93㎡、閲 覧席212席 松任キャン パス:114.30㎡、閲 覧席32席			
		788.23 ㎡		244 席	83,000 冊					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			金城大学短期大 学部と共用			
		2,722.39 ㎡		テニスコート7面						
経 費 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費に電子 ジャーナル、 データベースの 整備費（運用コ スト等を含む） を含む。
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	500千円	500千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	—千円	—千円	
		図書購入費	17,300千円	2,500千円	2,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	
	設備購入費	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	—千円	—千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			設備は白石石川 医療企業団が購 入し、同企業団 から無償貸与を 受ける。
	1,670 千円	1,400 千円	1,450 千円	1,450 千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、私立大学経常費補助金収入、資産運用収入等で充当							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	金城大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	医療健康学部	年	人	年次 人	人		倍		石川県白山市笠間 町1200番地	
	理学療法学科	4	65	—	290	学士(理学療法)	1.04	平成19年度		
	作業療法学科	4	35	—	70	学士(作業療法)	1.05	平成25年度		
社会福祉学部						0.77				
社会福祉学科	4	190	10	820	学士(社会福祉)	0.77	平成12年度			

事項		記入欄							備考	
既設大学等の状況	大学の名称	金城大学短期大学部								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
	幼児教育学科	年	人	年次人	人	短期大学士(幼児教育)	1.07	昭和51年度		石川県白山市笠間町1200番地
	美術学科	2	150	—	300	短期大学士(美術)	0.86	昭和51年度		
ビジネス実務学科	2	65	—	130	短期大学士(ビジネス実務)	0.73	昭和59年度			
ビジネス実務学科	2	135	—	270	短期大学士(ビジネス実務)	0.73	昭和59年度			
附属施設の概要		該当なし								

学校法人金城学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成26年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	平成27年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
金城大学					金城大学				
					看護学部 看護学科	80	-	320	学部の新設 (認可申請)
医療健康学部	理学療法学科	65	-		医療健康学部	65	-	260	
医療健康学部	作業療法学科	35	-		医療健康学部	35	-	140	
社会福祉学部	社会福祉学科	190	10		社会福祉学部	150	10	620	定員変更
		^{3年次}				^{3年次}			
計					計				
		290	10			330	10	1,340	
					金城大学大学院				
					リハビリテーション学研究科				大学院の新設 (認可申請)
					リハビリテーション学専攻(M)				
					計				
						5	-	10	
金城大学短期大学部					金城大学短期大学部				
幼児教育学科		150	-		幼児教育学科	150	-	300	
美術学科		65	-		美術学科	65	-	130	
ビジネス実務学科		135	-		ビジネス実務学科	135	-	270	
計					計				
		350	-			350	-	700	

教育課程等の概要														
(看護学部看護学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	スポーツ	1後	1				○							兼1
	スポーツ理論	2前	2				○							兼1
	レクリエーション活動Ⅰ	1前		1			○							兼1
	レクリエーション活動Ⅱ	1後		1			○							兼1
	英語Ⅰ	1前	1				○							兼4
	英語Ⅱ	1前	1				○							兼4
	英語Ⅲ	1後	1				○							兼4
	英語Ⅳ	1後	1				○							兼4
	言葉と文化(英語)Ⅰ	2前		1			○							兼1
	言葉と文化(英語)Ⅱ	2後		1			○							兼1
	言葉と文化(中国語)Ⅰ	2前		1			○							兼1
	言葉と文化(中国語)Ⅱ	2後		1			○							兼1
	医学英語	3前		1			○							兼1
	情報処理演習Ⅰ	1前	1				○							兼2
	情報処理演習Ⅱ	1後		1			○							兼1
基礎演習Ⅰ	1前	1				○		1	1	1	1			
基礎演習Ⅱ	1後	1				○		1	1	2	4			
小計(17科目)		—	10	8	0	—	—	2	1	2	4	0	兼11	—
主題科目	ボランティア入門	1前	2				○							兼1
	ボランティア活動Ⅰ	1通		1					1	1		2		
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1							3	1		
	統計学	2後		1			○							兼1
	自然科学Ⅰ(生物系)	1前		2			○							兼1
	自然科学Ⅱ(物理系)	1後		2			○							兼1
	自然科学Ⅲ(数学系)	1前		2			○							兼1
	自然科学Ⅳ(化学系)	1後		2			○							兼1
	自然科学概論	1前		2			○							兼1
	環境論	2後		2			○							兼1
	白山市の自然と文化	1前		2			○							兼1
	社会学	2後		2			○							兼1
	ソーシャルワーク論Ⅰ	3前		2			○							兼1
	ソーシャルワーク論Ⅱ	4後		2			○							兼1
	介護福祉論Ⅰ	3前		2			○							兼1
	介護福祉論Ⅱ	4後		2			○							兼1
	高齢者福祉論	1前		2			○							兼1
	障害者福祉論	1後		2			○							兼1
	法学(憲法)Ⅰ	2前		2			○							兼1
	法学Ⅱ	2後		2			○							兼1
	医療関係法	4後		2			○							兼1
美術	1後		2			○							兼1	
日本文学Ⅰ	2前		2			○							兼1	
日本文学Ⅱ	2後		2			○							兼1	
日本史Ⅰ	1後		2			○							兼1	
日本史Ⅱ	1後		2			○							兼1	
東洋史	2後		2			○							兼1	
小計(27科目)		—	2	49	0	—	—	1	1	3	2	0	兼15	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門基本科目	からだの理解	解剖生理学Ⅰ	1前	2			○			1								
		解剖生理学Ⅱ	1後	2			○			1								
		解剖生理学実習	1後	1					○	1				2				
		栄養代謝学	1前	1			○			1								
		微生物学	2前	1			○										兼1	
		人類遺伝・発生学	2前	1			○			1								
		免疫学	2後	1			○			1								
	疾病と治療	医学概論	1後	1			○			1								
		病理病態学	1後	2			○			1								
		診断治療学Ⅰ（内科系）	2前	2			○										兼1	
		診断治療学Ⅱ（外科系）	2前	1			○										兼2	オムニバス
		診断治療学Ⅲ（周産期）	2前	1			○										兼1	
		診断治療学Ⅳ（小児）	2後	1			○			1								
		診断治療学Ⅴ（精神）	2後	1			○										兼1	
		臨床栄養学	2前	1			○										兼1	
		臨床薬理学	2後	2			○										兼1	
		リハビリテーション概論	1前		1		○										兼1	
		臨床心理学Ⅰ	2前	1			○										兼1	
		臨床心理学Ⅱ	2後	1			○										兼1	
		心理学	1通		4		○										兼1	
		カウンセリング演習	2後	1					○								兼1	
		高齢者の心理	4後		2		○										兼1	
		障害者の心理	4後		2		○										兼1	
	安全管理	2後	1			○										兼1		
	感染防御	2後	1			○										兼1		
	保健医療の理解	保健医療概論	1前	1			○			1								
		保健医療制度論	1後	1			○										兼1	
		社会保障制度論	1後		1		○										兼1	
		石川県・白山市の保健医療事情	2前	1			○										兼1	
		看護関係法規	2後	1			○			1								
		公衆衛生学	1前	2			○										兼1	
		疫学・保健統計入門	2前	1			○										兼1	
	社会福祉概論Ⅰ	1前		2		○										兼1		
社会福祉概論Ⅱ	1後		2		○										兼1			
小計（34科目）	—	33	14	0	—	—	—	—	4	0	0	0	2	兼18	—			
専門展開科目	基礎看護学	看護概論	1前	2			○			1								
		看護理論	1後	2			○			1								
		看護倫理	1後	2			○			1								
		看護情報論	3前		1		○			1								
		基礎看護学方法論	1後	2			○			1								
		基礎看護学方法論演習Ⅰ	1後	1					○	1		1		1			共同	
		基礎看護学方法論演習Ⅱ	2前	1					○	1			1	1			共同	
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1						6	1	2	4	3					
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2						8	1	3	4	4					
	成人看護学	成人看護学概論	1後	1			○			1								
		成人看護論Ⅰ（健康期）	2前	1			○			1	1						共同	
		成人看護論Ⅱ（急性期）	2前	1			○			1	1						共同	
成人看護論Ⅲ（回復期）		2前	1			○			2							共同		
成人看護論Ⅳ（慢性期）		2前	1			○			2							共同		
成人看護論Ⅴ（終末期）	2前	1			○			1										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門展開科目	成人看護学演習Ⅰ	2後	1				○		1			1	1	共同
	成人看護学演習Ⅱ	2後	1				○			1	1		1	共同
	成人看護学実習Ⅰ	3後	3					○	2	1	1	1	1	兼1
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3					○	2	1	1		1	兼1
	高齢者看護学概論	2後	1				○		1					オムニバス
	高齢者看護論	3前	2				○		1		1			共同
	高齢者看護学演習	3前	1					○			2		1	
	高齢者看護学実習Ⅰ	3後	2					○	2	2		1	1	
	高齢者看護学実習Ⅱ	3後	2					○	2	2		1	1	
	小児看護学概論	2後	1				○		1					オムニバス
	小児看護論	3前	2				○		1			1		共同
	小児看護学演習	3前	1					○	1			1	1	
	小児看護学実習	4前	2					○	1			1	2	
	母性看護学概論	2後	1				○		1					オムニバス
	母性看護論	3前	2				○		2					共同
	母性看護学演習	3前	1					○	1			1	1	
	母性看護学実習	4前	2					○	2			1	1	
	精神看護学概論	2後	1				○		1					
	精神看護論	3前	2				○		1					
	精神看護学演習	3前	1					○	1		1		1	共同
	精神看護学実習	4前	2					○	2		1		1	
	在宅看護学概論	2後	1				○		1					オムニバス
	在宅看護論	3前	2				○		1	1				共同
	在宅看護学演習	3前	1					○	1	1			1	
	在宅看護学実習	4前	2					○	1	1		1	1	
	統合実習	4通	2					○	10	2	5	4		
	看護管理論	3前	1				○		1					
	看護教育論	3前		1			○		1					
	チーム医療論	2後	1				○		1					兼2
	チーム医療演習	3前	1					○	1					共同
地域と看護	2後		1			○							兼1	
災害看護論	3前	1				○							兼1	
国際看護論	3前	1				○		1					オムニバス	
看護学研究法	2後	2				○		3		1				
看護英語	3前		1				○						兼1	
卒業研究ゼミⅠ	3通	1					○	12	2	4				
卒業研究ゼミⅡ	4通	1					○	12	2	4				
卒業論文	4通	4					○	12	2	4				
小計(53科目)		—	74	4	0		—	12	2	5	4	5	兼6	—
合計(131科目)		—	119	75	0		—	14	2	5	4	5	兼45	—
学位又は称号	学士(看護学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)									
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
【卒業要件】127単位														
基礎科目	必修	10単位	選択8単位以上	計	20単位以上	1学年の学期区分			2学期					
主題科目	必修	2単位												
専門基本科目	必修	33単位	-	計	33単位	1学期の授業期間			15週					
専門展開科目	必修	74単位	-	計	74単位									
必修119単位 選択8単位以上 計127単位以上						1時限の授業時間			90分					
履修科目の登録の上限:48単位(年間)														

教育課程等の概要														
(看護学部看護学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	スポーツ	1後	1				○							兼1
	スポーツ理論	2前	2			○								兼1
	レクリエーション活動Ⅰ	1前		1			○							兼1
	レクリエーション活動Ⅱ	1後		1			○							兼1
	英語Ⅰ	1前	1				○							兼4
	英語Ⅱ	1前	1				○							兼4
	英語Ⅲ	1後	1				○							兼4
	英語Ⅳ	1後	1				○							兼4
	言葉と文化(英語)Ⅰ	2前		1			○							兼1
	言葉と文化(英語)Ⅱ	2後		1			○							兼1
	言葉と文化(中国語)Ⅰ	2前		1			○							兼1
	言葉と文化(中国語)Ⅱ	2後		1			○							兼1
	医学英語	3前		1			○							兼1
	情報処理演習Ⅰ	1前	1				○							兼2
情報処理演習Ⅱ	1後		1			○							兼1	
小計(15科目)	—	—	8	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼11
主題科目	ボランティア入門	1前	2			○								兼1
	統計学	2後		1			○							兼1
	自然科学Ⅰ(生物系)	1前		2		○								兼1
	自然科学Ⅱ(物理系)	1後		2		○								兼1
	自然科学Ⅲ(数学系)	1前		2		○								兼1
	自然科学Ⅳ(化学系)	1後		2		○								兼1
	自然科学概論	1前		2		○								兼1
	環境論	2後		2		○								兼1
	白山市の自然と文化	1前		2		○								兼1
	社会学	2後		2		○								兼1
	ソーシャルワーク論Ⅰ	3前		2		○								兼1
	ソーシャルワーク論Ⅱ	4後		2		○								兼1
	介護福祉論Ⅰ	3前		2		○								兼1
	介護福祉論Ⅱ	4後		2		○								兼1
	高齢者福祉論	1前		2		○								兼1
	障害者福祉論	1後		2		○								兼1
	法学(憲法)Ⅰ	2前		2		○								兼1
	法学Ⅱ	2後		2		○								兼1
	医療関係法	4後		2		○								兼1
	美術	1後		2		○								兼1
	日本文学Ⅰ	2前		2		○								兼1
日本文学Ⅱ	2後		2		○								兼1	
日本史Ⅰ	1後		2		○								兼1	
日本史Ⅱ	1後		2		○								兼1	
東洋史	2後		2		○								兼1	
小計(25科目)	—	—	2	47	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼15

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基本科目	解剖生理学実習	1後	1					○	1					2	
	医学概論	1後	1			○			1						
	リハビリテーション概論	1前		1		○									兼1
	臨床心理学Ⅰ	2前	1			○									兼1
	臨床心理学Ⅱ	2後	1			○									兼1
	心理学	1通		4		○									兼1
	カウンセリング演習	2後	1				○								兼1
	高齢者の心理	4後		2		○									兼1
	障害者の心理	4後		2		○									兼1
	保健医療制度論	1後	1			○									兼1
	社会保障制度論	1後		1		○									兼1
	社会福祉概論Ⅰ	1前		2		○									兼1
	社会福祉概論Ⅱ	1後		2		○									兼1
小計 (13科目)		—	6	14	0	—	—	—	2	0	0	0	2	兼7	—
合計 (53科目)		—	16	69	0	—	—	—	2	0	0	0	2	兼29	—
学位又は称号		学士 (看護学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学関係)								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
【卒業要件】127単位							1学年の学期区分		2学期						
基礎科目 必修 10単位		主題科目 必修 2単位		選択8単位以上		計 20単位以上									
専門基本科目 必修 33単位		—		—		計 33単位		1学期の授業期間		15週					
専門展開科目 必修 74単位		—		—		計 74単位									
		必修119単位		選択8単位以上		計127単位以上									
履修科目の登録の上限：48単位 (年間)							1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要														
(看護学部看護学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	基礎演習Ⅰ	1前	1				○		1	1	1	1		
	基礎演習Ⅱ	1後	1				○		1	1	2	4		
	小計(2科目)	—	2	0	0		—		2	1	2	4	0	—
主題科目	ボランティア活動Ⅰ	1通		1				○	1	1		2		
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○			3	1		
	小計(2科目)	—	0	2	0		—		1	1	3	2	0	—
専門基本科目	からだの理解	解剖生理学Ⅰ	1前	2			○		1					
		解剖生理学Ⅱ	1後	2			○		1					
		栄養代謝学	1前	1			○		1					
		微生物学	2前	1			○							兼1
		人類遺伝・発生学	2前	1			○		1					
		免疫学	2後	1			○		1					
	疾病と治療	病理病態学	1後	2			○		1					
		診断治療学Ⅰ(内科系)	2前	2			○							兼1
		診断治療学Ⅱ(外科系)	2前	1			○							兼2 オムニバス
		診断治療学Ⅲ(周産期)	2前	1			○							兼1
		診断治療学Ⅳ(小児)	2後	1			○		1					
		診断治療学Ⅴ(精神)	2後	1			○							兼1
		臨床栄養学	2前	1			○							兼1
		臨床薬理学	2後	2			○							兼1
		安全管理	2後	1			○							兼1
		感染防御	2後	1			○							兼1
	保健医療の理解	保健医療概論	1前	1			○		1					
		石川県・白山市の保健医療事情	2前	1			○							兼1
		看護関係法規	2後	1			○		1					
		公衆衛生学	1前	2			○							兼1
		疫学・保健統計入門	2前	1			○							兼1
小計(21科目)	—	27	0	0		—		4	0	0	0	0	兼11	
専門展開科目	基礎看護学	看護概論	1前	2			○		1					
		看護理論	1後	2			○		1					
		看護倫理	1後	2			○		1					
		看護情報論	3前		1		○		1					
		基礎看護学方法論	1後	2			○		1					
		基礎看護学方法論演習Ⅰ	1後	1				○	1		1		1	共同
		基礎看護学方法論演習Ⅱ	2前	1				○	1			1	1	共同
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1					6	1	2	4	3	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2					8	1	3	4	4		
	成人看護学	成人看護学概論	1後	1			○		1					
		成人看護論Ⅰ(健康期)	2前	1			○		1	1				共同
		成人看護論Ⅱ(急性期)	2前	1			○		1	1				共同
		成人看護論Ⅲ(回復期)	2前	1			○		2					共同
		成人看護論Ⅳ(慢性期)	2前	1			○		2					共同
成人看護論Ⅴ(終末期)		2前	1			○		1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門展開科目	成人看護学	成人看護学演習Ⅰ	2後	1				○		1			1	1	共同
	成人看護学演習Ⅱ	2後	1				○				1	1	1	1	共同
	成人看護学実習Ⅰ	3後	3					○		2	1	1	1	1	兼1
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3					○		2	1	1	1	1	兼1
	高齢者看護学	高齢者看護学概論	2後	1			○			1					オムニバス
	高齢者看護論	3前	2				○			1		1			共同
	高齢者看護学演習	3前	1					○				2		1	
	高齢者看護学実習Ⅰ	3後	2					○		2		2	1	1	
	高齢者看護学実習Ⅱ	3後	2					○		2		2	1	1	
	小児看護学	小児看護学概論	2後	1			○			1					オムニバス
	小児看護論	3前	2				○			1			1		共同
	小児看護学演習	3前	1					○		1			1	1	
	小児看護学実習	4前	2					○		1			1	2	
	母性看護学	母性看護学概論	2後	1			○			1					オムニバス
	母性看護論	3前	2				○			2					共同
	母性看護学演習	3前	1					○		1			1	1	
	母性看護学実習	4前	2					○		2			1	1	
	精神看護学	精神看護学概論	2後	1			○			1					
	精神看護論	3前	2				○			1					
	精神看護学演習	3前	1					○		1		1		1	共同
	精神看護学実習	4前	2					○		2		1		1	
	在宅看護学	在宅看護学概論	2後	1			○			1					オムニバス
	在宅看護論	3前	2				○			1	1				共同
	在宅看護学演習	3前	1					○		1	1			1	
	在宅看護学実習	4前	2					○		1	1		1	1	
	看護の統合と発展学習	統合実習	4通	2					○	10	2	5	4		
		看護管理論	3前	1			○			1					
看護教育論		3前		1		○			1						
チーム医療論		2後	1			○			1						
チーム医療演習		3前	1				○		1					兼2 共同	
地域と看護		2後		1		○								兼1	
災害看護論		3前	1			○								兼1	
国際看護論		3前	1			○			1						
看護学研究法		2後	2			○			3		1			オムニバス	
看護英語		3前		1			○							兼1	
卒業研究ゼミⅠ	3通	1				○		12	2	4					
卒業研究ゼミⅡ	4通	1				○		12	2	4					
卒業論文	4通	4				○		12	2	4					
小計 (53科目)	—	74	4	0	—	—	—	—	12	2	5	4	5	兼6 —	
合計 (78科目)			—	103	6	0	—	—	14	2	5	4	5	兼17 —	
学位又は称号	学士 (看護学)	学位又は学科の分野	保健衛生学関係 (看護学関係)												
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
【卒業要件】 127単位							1 学年の学期区分		2 学期						
基礎科目	必修	10単位	} 選択8単位以上	計	20単位以上										
主題科目	必修	2単位													
専門基本科目	必修	33単位	-	計	33単位	1 学期の授業期間		15週							
専門展開科目	必修	74単位	-	計	74単位										
必修119単位 選択8単位以上 計127単位以上							1 時限の授業時間		90分						
履修科目の登録の上限：48単位 (年間)															

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科学的思考の基盤・人間と生活 基礎科目	スポーツ	現在の子どもたちは、自然の中で行う遊ぶ機会、しかも集団遊びをする機会が失われてきた。その結果、若者たちの体力低下が指摘され、仲間づくりが不得意な学生が増えている。次の世代を担う学生たちが心身共に健全であることを願い、生涯親しむことの出来るスポーツの生活化を実践していく。実施種目は、パドルテニス、グラウンドゴルフ、ユニバーサルホッケー、ソフトバレーボール等である。技術の習得時や競技では、コミュニケーション能力を発揮し、仲間と共にスポーツを心底から楽しみ、その魅力を認識できるようにする。	
	スポーツ理論	現代社会の運動不足、精神的ストレスといった大きな健康問題に対し、どうしたら意欲的に運動し、体のあらゆる機能を改善・向上し、豊かで逞しい生活をしていけるかを大切なテーマとしている。運動スポーツは、本来その活動そのものに爽快感や充実感などといった心理的側面が大きく反映し、運動スポーツの楽しさとなっている点に注目し、運動スポーツを実践していく上で必要な心理的なスキルをどのように身につけ、やる気、持続力、パフォーマンスを高めていくのかを学ぶ。	
	レクリエーション活動Ⅰ	レクリエーションの社会的意義を理解させ、レクリエーション活動の援助者として、関係各現場におけるレクリエーション活動に関する計画・諸準備・援助法・評価法等について学ばせる。そして、レクリエーション活動計画の作成能力を習得し、レクリエーション活動の実践的援助能力を向上させる。	
	レクリエーション活動Ⅱ	レクリエーション援助法Ⅱでは、レクリエーション援助法Ⅰで学んだ内容を深め、実践力・応用力を高めるために、「チュートリアル」や「シュミレーション」を取り入れた授業形態で開講し、自学自習の学習態度を学ばせる。	
	英語Ⅰ	リスニング、スピーキングの基礎力を養成する。高校までに修得した知識・技能を再確認することから始め、大量の平易な英文を聞いたり話したりする練習を繰り返すことによって、英語の音声に習熟することを目指す。映画・テレビドラマなどのオーセンティックな教材を活用し、日常的な場面において頻出する基本的な表現を学習する。さらに学習した表現を用いて、口頭で簡単なやり取りをする技能を身につける。25名程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。個人またはグループによるプレゼンテーションを適時行う。	
	英語Ⅱ	リーディング、ライティングの基礎力を養成する。高校までに修得した知識・技能を再確認することから始め、大量の平易な英文を読んだり書いたりする練習を繰り返すことによって、英語の書き言葉に習熟することを目指す。新聞・雑誌等のオーセンティックな教材を活用し、日常的な場面において頻出する基本的な表現を学習する。さらに学習した表現を用いて、文章で自分の考えを表現する技能を身につける。25名程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目 科学的 思考の 基盤・ 人間と 生活	英語Ⅲ	英語Ⅰに引き続き、リスニング、スピーキングの実践力を養成する。難易度の高い英文を聞いたり話したりする練習を繰り返すことにより、英語の聴解力、発話力をより一層発展させることを目指す。ディベート等の活動を取り入れ、日常会話だけでなく抽象度の高い内容について議論できる技能を身につける。25名程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。個人またはグループによるプレゼンテーションを適時行う。	
	英語Ⅳ	英語Ⅱに引き続き、リーディング、ライティングの実践力を養成する。難易度の高い英文を読んだり書いたりする練習を繰り返すことにより、英語の読解力、文章力をより一層発展させることを目指す。新聞・論文等の抽象度の高い内容の文章を教材にして、文章を批判的に読みこなす技能と自分の考えを論理的な文章で表現する技能を身につける。25名程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。	
	言葉と文化（英語）Ⅰ	自然な英語に耳を慣れさせ、英会話力を一層向上させることを目的とする、初級から中級レベルの英会話の授業である。日常生活でよく使われる表現を使って会話する上で必要な、動詞の活用や代名詞の使用の習慣、語彙の増強と縮約形の利用に重点を置く。教材としては、英米の若者の文化や生活習慣に関する英文やビデオなどをふんだんに使用する。原則として、授業は英語で行うが、学生のレベルは考慮する。少人数クラスで学生同士の対話、共同作業を重視する演習を行う。	
	言葉と文化（英語）Ⅱ	言葉と文化（英語）Ⅰを更に発展させ、実践的な英語によるコミュニケーション能力の習得を目的とする。口語表現を用いて「話す」ことと「書く」ことの訓練を重視する。学生が主体的に行うスピーチやライティングを通し、自分の考えを英語で表現し、さらに、意見交換をすることができる基礎力を身につけることを目指す。教材としては、英米の若者の文化や生活習慣に関するものを多く使用する。原則として授業は英語で行う。少人数クラスで学生同士の対話、共同作業を重視する演習を行う。	
	言葉と文化（中国語）Ⅰ	中国語の初心者を対象とした入門レベルの授業。中国語の特徴、簡体字と繁体字、発音のローマ字表記ーピン音、音節の構造など、中国語に関する基礎的知識を身につけ、子音と母音、イントネーション、ピン音の綴りの規則、簡単な挨拶文、自己紹介文、年月日・曜日の表現、電話番号の言い方、人称代名詞・常用疑問詞・否定副詞・動詞「是」と「有」の用法を習得することを目標にする。中国の社会・歴史・文化にも触れつつ、授業を進める。	
	言葉と文化（中国語）Ⅱ	言葉と文化（中国語）Ⅰで習った内容をふまえ、動詞・形容詞・助数詞の用法、句や文の構成法を重点に置き、時点・時間量の言い方、年齢の表現、値段の聞き方・お金の単位などの重要構文を正確に覚えておく。さらに動詞述語文の基本語順、推量・疑問・提案・命令の表現、時制とアスペクト、所在を表す動詞「在」と前置詞「在」、存在を表す動詞「有」と所有を表す動詞「有」など基本的な文法事項を身につけることを目指す。	
	医学英語	将来、医療現場で働く人にとって必要となるであろう基本的な英語医学用語を覚え、知らない用語の意味をも推測できるよう、それらの語源とその語の成り立ちについて学ぶ。医学論文を読み書くための基本的な技術についても学ぶほか、医療機関を訪れる外国人に接するとき役に立つ英会話のこつ、英語を使うときの心構え、外国人と接するときのマナー等についても理解し、各人が国際的な視野を拓けられるよう学習する。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	科学的思考の 基盤・人間と生活	情報処理演習 I	「情報の処理及び表現の能力」「問題解決能力」の習得を目的に、いくつかの問題解決技法と問題解決のための表計算ソフトウェア利用技術の習得を目標に、以下の内容で授業を展開する。表計算ソフトウェアの基礎、データベースの操作、アンケートの集計、グラフによるデータの可視化、回帰分析によるデータの推定、投票による社会的選択、階層分析法による意思決定、モンテカルロシミュレーション。
	情報処理演習 II	「情報の収集、処理、及び表現の能力」の習得を目標に、口頭表現と表現技法、ストーリー（アウトライン）とシナリオの作成をテーマとして、模擬発表会中心の演習形式の授業を行う。授業は以下の内容で展開する。プレゼンテーションの概要、プレゼンテーションソフトウェアの基本操作、表現技法（口語表現）、取材・ストーリー（アウトライン）とシナリオの作成、プレゼンテーション資料の作成、発表会・相互評価。	
	基礎演習 I	少人数による演習形式を用い、高校までの教師主導型の学習姿勢から、大学における自主的学習の学習姿勢へ移行するためのオリエンテーション的機能を果たす。アクティブラーニング形式の学習によって、問題点の発見と整理・討論・調査・発表等の作業を体験することで、大学での学習に必要な基礎能力を養成するとともに、看護職を目指す学生の持つ興味・関心を増幅し深めることによって、知的活動の動機付けを高め、能動的な学習意欲を高める。	
	基礎演習 II	「基礎演習 I」で習得した知識・技能を応用し、アクティブ・ラーニング形式の授業の中で、2年次から本格的に始まる専門分野の学習と研究に必要な読解能力、言語運用能力、調査能力、コミュニケーション技法、プレゼンテーション能力等を身につける。看護に関係した題材を用い、担当教員があらかじめテーマを設定する。学生は与えられた課題から、自ら問題点を考え、調査整理し、発表討論することにより、大学の専門教育を学習するための能動的意欲を養う。	
主題科目	科学的思考の 基盤・人間と生活	ボランティア入門	ボランティアの本質は、主体性に基づく活動による「共感しあう社会づくり」にあるといえる。今日においては、ボランティア・市民活動として、多様な分野で取り組みがなされており、個別的にも社会的にも大切な役割を担っている。この科目では、ボランティアの思想と歴史、そして役割及び意義、今日的課題にいたるまで学習する。同時に、ボランティア活動の具体的事例を織り交ぜながら学ぶことにより、活動への参加意欲を高めたい。
	ボランティア活動 I	学生が参加したボランティア活動について、科目担当教員等によって構成されるボランティア活動担当者連絡会議に、活動レポートが提出されたものを単位認定対象とする。一定の活動内容、活動時間等の要件を満たすことが確認された場合に、成績の評価、単位の認定を行う。ボランティア活動 I では、地域の病院・社会福祉施設・団体等における多様な活動への参加を促すよう、広範なボランティア活動について、単位認定を行う。	
	ボランティア活動 II	学生が参加したボランティア活動について、科目担当教員等によって構成されるボランティア活動担当者連絡会議に、活動レポートが提出されたものを単位認定対象とする。ボランティア活動 II では、ボランティア活動 I での体験を基に、地域の病院・社会福祉施設・団体等の行事等から個々の学生の学習目標に応じて選択した、継続的な活動を含むボランティア活動について、単位の認定を行う方針である。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科学的 思考の 基盤・ 人間と 生活 主題 科目	統計学	医療系分野を含めた科学分野では、調査・実験・臨床経験等から得たデータの特徴を数値的に引き出し、適切にまとめた上で提示しなければならない。本講義では、まずは標本調査の結果として得られるデータの分類と、そのデータの特徴を表現するのに適した指標について解説する。その後、標本集合とその背後にある母集合を意識しながら、確率論に基づいた推測統計や検定について解説し、看護研究を進める上で必要とされる統計的なデータの分析手法を習得することを目的とする。	
	自然科学Ⅰ（生物系）	生物学は20世紀後半に劇的な展開を見せ、今も急速に進展している学問分野である。iPS細胞などの幹細胞や、それをを用いた再生医療の話題などは、我々の健康や病気の治療とも密接に関係している。特に医学や看護学を学ぶ上では、生物学の基本的知識無しには、人体の構造や機能および疾病を理解することはできない。この講義では、物質的な基盤から細胞レベルまで概説すると共に、ヒトの生命現象を理解するために必要となる基本的な事柄を中心に講ずる。	
	自然科学Ⅱ（物理系）	物理学の目的は、目の前にある自然現象が従う法則性を見つけ、それを説明することである。そして、自然科学の中でも物理学はあらゆる科学の基礎であり、物理的な考え方を身に付けることは他の全ての分野にも応用できる広範な論理的思考力、および洞察力を養うことにもつながる。本講義では、物理学の中でも特に医療系分野の学生にとって重要な項目に重点を置き、自然の従う法則性の理解を第一としつつ、その法則を適切に説明するための数学的手法の習得を目的とする。	
	自然科学Ⅲ（数学系）	医療系分野を含めた科学分野では、実験結果などを数字で定量的に提示しなければならない。数学を学ぶということは、単に公式を暗記して当てはめられるようになるのではなく、数字を使った情報伝達に必要な手順やポイントを理解し、それらを現実実践できるように練習を重ねることである。この講義では、高校までに学んできた数学を復習しながら数学的思考力を身につけるとともに、数学が必要とされる身近で実践的な具体例を挙げながら、医療系分野で必要とされる数学的知識や手法について学ぶ。	
	自然科学Ⅳ（化学系）	自然科学は、自然現象の観察・実験をとおして、自然を理解する過程で発達してきた。自然現象の背後で働く原理について理解し、現代的な自然科学的物質観を涵養することを目的に、物質の構造と性質、物質の状態変化や反応を理解することを本講義の目標とする。本講義では、自然科学の一分野である化学における基本的な現象や概念・物質、例えば、原子・分子、水と水溶液、酸とアルカリ、酸化と還元などを生体や生体分子を題材として説明する。	
	自然科学概論	高度に発展した自然科学とその成果を負の側面も含め知ることは、現代に生きる人間の基礎的素養のひとつとして重要である。本講義では、現代的な自然科学的物質観を涵養することを目的とし、自然現象の背後で働く原理を理解し、自然科学の基礎的な知識や考え方を習得することを目標とする。講義は単なる科学史や現代自然科学の解説ではなく、科学者が到達した自然観や科学哲学にも触れる。また、自然科学における抽象化・モデル化の具体例を通して、科学的な議論の仕方や仕組みに言及する。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科学的 思考の 基盤・ 人間と 生活 主 題 科 目	環境論	地球温暖化や生態系の破壊といった近年の環境問題の歴史と現状を学び、これらがわれわれ一人ひとりの生活に直結した問題であることを理解する。その上で、環境負荷を緩和し、生活環境を改善する手法の一つとして、特に植物による環境緑化の効用について学ぶ。植物の物理的効用だけでなく、さまざまな心理的効用についても論及し、人の心に癒しと安らぎを与える緑空間の可能性について考える。また、日本やヨーロッパの庭園史を学び、環境共生の時代へ向けて、われわれの住環境における新しい庭園のありかたについても考えたい。	
	白山市の自然と文化	本学のある白山市は、海岸部から海拔2702mの白山の山頂にいたる起伏に富んだ地形からなっており、豊かな自然環境に恵まれ、その中に暮らす人々の関わりによって、様々な歴史・文化・産業がはぐくまれてきた。白山市では地域資源を保全し、教育や地域振興につなげていくため、「白山手取川ジオパーク」活動を推進している。本講義ではこうした地元白山市の自然と文化、産業について学ぶ。	
	社会学	私たちは、「複雑な社会」に生きている。そこでは、「私」の行為が地球の裏側の人々に影響を与える可能性をもつ一方、「私」の元には相反した情報や多様な価値観が流れ込む。現在クローズアップされている様々な事象や社会問題を題材にとりあげて、そうした社会に生きる一員として、現代社会の特質とその変化について考えるための基本的な概念を学ぶ。それと同時に、個人と社会を重層的に捉えることのできる社会学的視点を身につける。	
	ソーシャルワーク論Ⅰ	ソーシャルワーク論Ⅰでは、まずソーシャルワークの概念と範囲を明らかにした上で、欧米諸国及びわが国におけるソーシャルワークの歴史的形成過程をその時々の社会的背景との関係で明らかにしていく。またソーシャルワークの最も重要な価値基盤としてある「人間の尊厳」と「社会正義」の意義を確認し、その具体的適用としての権利擁護やエンパワメントの実践の意義について学ぶ。これに加え、「自立支援」「ノーマライゼーション」「ソーシャル・インクルージョン」等の理念についても紹介する。	
	ソーシャルワーク論Ⅱ	ソーシャルワーク論Ⅱでは、ソーシャルワーク実践を担う専門職（ソーシャルワーカー）の概念と範囲を明らかにした上で、その専門職倫理とその必要性を職能団体の倫理綱領等を通じて学ぶ。また社会福祉領域の専門職としてのソーシャルワーカーと、看護を含む保健医療、教育等の関連領域の専門職との間での連携及びチームアプローチの方法についてその意義と内容を学ぶ。なおソーシャルワーカー以外の対人援助専門職がソーシャルワークの技法を活用する意義についても言及する。	
	介護福祉論Ⅰ	介護福祉論は介護に必要な知識・技術・価値、倫理の基礎であるため、学ぶ範囲は幅広い。そこで、介護福祉論Ⅰでは、人間の生活、家庭生活における家族の役割、高齢者・障害者の生活の理解、障害者の生活の困難性や障害者の権利を考える。次に介護福祉の歴史と発展、社会的役割を理解する。その上で介護の対象者や看護など関連領域との連携を学び、介護の具体的な業務内容を理解する。また、諸外国における介護福祉の現状と課題について考える機会とする。介護福祉に必要な対人援助法の技法を紹介し実践的な学びにつなげる。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科学的 思考の 基盤・ 人間と 生活 主 題 科 目	介護福祉論Ⅱ	介護福祉論Ⅱでは、日常生活で必要となる具体的支援技術の知識・技術・倫理を学ぶ。重ねて倫理については、各職能団体の倫理綱領があるので連携する専門職の考え方も紹介したい。介護の対象者が生活している場所により、活動の場は拡大されるが、より良い生活の維持を目指して支援する視点も考えさせたい。その為には、生活を支えるサービスと提供を結びつけ支援する手法も紹介したい。支援をするには支援する側の健康と安全も重要であり自身の安全と感染予防に留意することも学ぶ。併せて対象者に安全に技術を提供する技術を考える学びとしたい。	
	高齢者福祉論	高齢者福祉論では、まず今日の高齢者がおかれている全体的状況と、高齢者の生活ニーズ及び高齢社会が抱える問題について概観する。その上で、わが国の高齢者保健福祉制度の変遷過程と現状及び課題を明らかにしていく。また現在の高齢者保健福祉制度の中で重要な位置を占めている介護保険制度については、成立の意義及び制度の仕組みと、そのサービス内容、専門職の役割等について学んでいく。特に介護保険制度における社会福祉専門職と看護を含む保健医療専門職の連携のあり方について言及する。	
	障害者福祉論	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について知り、現代社会における障害福祉の理念と意義について理解する。障害福祉史から施策の変遷及び動向を理解するとともに障害者自立支援法の概念とサービス体系・諸制度を理解する。障害者福祉及び関連分野の専門性及び連携のあり方を理解する。障害者の実態を解説し医療相談援助活動、介護サービス活動の具体的事例を解説し医療援助・福祉援助の連携支援を理解する。	
	法学（憲法）Ⅰ	法学一般及び憲法の基礎知識と理論の実用的習得を主要な目的とする。概要として、法学一般は法の目的、法規範、法の分類と体系等、憲法は日本国憲法の特徴と基本原理、基本的人権の特質と分類、最後に統治機構の問題として三権各々の内容と特色等基礎知識と理論を講義する。そして社会及び日常生活における法の作用や役割についても言及し、医療従事者が常識や教養として知っておくべき法律の重要性を理解するようにもっていきたい。	
	法学Ⅱ	法学の学習において憲法と同様に重要である民法と行政法の基礎知識と理論の習得を主な目標とし、日常生活や職業と民法及び行政法との関わりを実際的な事例を紹介しながら講義する。内容としては一般教養的な法律知識と医療従事者として必要とされる専門的な法律知識を織り交ぜた構成とする。具体的には、民法では財産法の特徴や契約法及び不法行為法の基礎知識や理論、宗教法の特徴を、行政法では行政活動、行政救済、行政手続や地方自治等の基礎知識や理論を講義する。	
	医療関係法	この講義では、医療従事者としての職務遂行に際して求められる法的知識や、社会保障、社会福祉等の、医療と密接に関連する法制度について学ぶ。その上で、実際に医療の現場で生じている様々な法的問題（患者の権利、インフォームド・コンセントと患者の自己決定権、医療事故、脳死と臓器移植、終末期医療と安楽死・尊厳死、遺伝子、性の決定等）を取り上げ、それに対処するための法的な考え方（リーガルマインド）を身につけることを目標とする。	
	美術	絵画や彫刻等の純粋美術のみならず、ファッションや映像、デザイン等現代人の生活と美術は切り離すことができない。本講義では広く美術に関する教養を修めさせることを目的としつつ、一方で、社会におけるその重要性や必要性について、特にヒーリングアートやバリアフリーデザイン等についても専門的な知識が求められるようレクチャ構成するとともに、一部で、絵を描く際に重要な右脳をトレーニングするためのスケッチ等も取り入れている。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科学的 思考の 基盤・ 人間と 生活 主題 科目	日本文学Ⅰ	立場を入れ替えての他者理解や自己の客観視は、物語の登場人物の言動を通して会得される部分が少なくない。この講義では、人物造型（フラット・キャラクターとラウンド・キャラクター）・語り手の役割・トポス（場）などの、小説の理解につながる着眼方法の習得を目的とする。社会や人間の理解に有益な小説を読むことで、恋愛を含む人間関係の中での生きる知恵、患者と接する職業人としての資質を、表現世界を楽しみながら身につけることを到達目標とする。	
	日本文学Ⅱ	「韻文」感覚があると、適切な短い少ない言葉で人を感銘させ、人の心を良い方へ動かすことが可能になる。他者を励ます際や厳しい覚悟を持たせる際に有益である。日本の近現代の詩・短歌・俳句の名作に親しむことで、人の心情や季節の推移・自然詠の魅力を理解すれば、たとえば行分け散文と「詩」の違いが見分ける能力がつく。「韻文」が散文と異なる原理で成り立つ存在である旨学習し、どんな作品が韻文として優れているか、理解できるようになることを到達目標とする。	
	日本史Ⅰ	日本の古代・中世の歴史の流れについて概説します。縄文文化の特異性。本格的な稲作農業の始まりから統一国家が形成されるまで。東アジア情勢の変動と大化改新の関連性。日本の律令制度はなぜ短期間で崩壊するのか。やがて中央では日本型政治形態の先駆といえる摂関政治が成立し、地方では武士と呼ばれる階層が誕生する。関東武士団の独立運動に端を発する鎌倉幕府の成立。惣領制支配の限界による鎌倉幕府の崩壊。やがて南北朝の内乱を経て室町幕府が成立するまで。	
	日本史Ⅱ	日本の近世の歴史の流れについて概説します。中世的支配から脱却し新たな支配方式を模索する戦国大名たち。織豊政権の誕生。なぜ徳川幕府は長期安定政権たり得たのか。貨幣経済の発展による幕藩体制の矛盾の拡大、外国船の来航による国際的緊張の高まりという時代背景の中で。特に田沼意次・阿部正弘・井伊直弼をピックアップし再評価する。薩摩藩の老獪な外交政策と徳川幕府の崩壊。廃藩置県によって近代国家の基礎が成立するまで。	
	東洋史	東アジア諸国交流・共生、各民族の文化衝突・融合の歴史に注目し、近年発見された考古学資料を講義に組み込んで、東洋の歴史と文化伝統に対する理解を一層深めさせる。東アジアにおける農耕文明と遊牧文明の起源、稲作文化の伝播、殷・周都市国家から秦・漢統一帝国への転換、漢王朝の西域経営と朝鮮半島の支配、五胡十六国時代の民族大移動、隋・唐律令国家の成立、朝鮮半島三国の興亡、モンゴル帝国のユーラシア大陸征服戦争、明王朝の北虜南倭の危機、アヘン戦争と中華帝国の崩壊など歴史における画期的な出来事を分析し、歴史の流れと全体像を把握しながら講義を進める。	
専 門 基 本 科 目 から だ の 理 解	解剖生理学Ⅰ	ヒトの様々な病気や、それに対する看護を学んでいくにあたって、病気について理解するためには、それ以前に、まず正常な人体について知っていなければならない。解剖生理学は正常な人体の構造と機能に関する正しい知識と理解を身につけることを目的とし、すべての医学系科目の基礎として重要である。前期の解剖生理学Ⅰでは解剖生理学総論に続いて、消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系器官の正常構造と機能について学ぶ。	
	解剖生理学Ⅱ	ヒトの様々な病気や、それに対する看護を学んでいくにあたって、病気について理解するためには、それ以前に、まず正常な人体について知っていなければならない。解剖生理学は正常な人体の構造と機能に関する正しい知識と理解を身につけることを目的とし、すべての医学系科目の基礎として重要である。前期の解剖生理学Ⅰに続き、解剖生理学Ⅱでは、運動器系、内分泌系、神経系、生殖器系器官の正常構造と機能について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 本 科 目	か ら だ の 理 解	解剖生理学実習	この実習は解剖生理学の理解を深めることを目標とし、ヒトや動物を用いた実験・計測を行うことによって、科学的研究の基礎となる観察・測定法・記録法を学ぶ。また、ヒトや動物を材料に使うときの倫理等にも留意して、今後の卒業研究等につながる実験者としての態度を身につける。組織標本の観察、小動物の解剖、神経と筋肉、心電図、体温をテーマとして取り上げる。最後に、解剖生理学講義・実習の総まとめとして、人体解剖見学を行う。
		栄養代謝学	栄養とは生物がその生命を維持するために外界から必要な物質を取り込んで利用する働きであり、取り込んだ物質を利用するために分解したり、取り込んだ物質を材料に、生命が必要とする物質を合成したりする働きを代謝と呼ぶ。本講義では、ヒトの生存に必要な三大栄養素を中心に、どのような構造の物質か、生体内におけるその役割、どのように消化・吸収されるか、細胞内でどのように代謝されるか、疾病との関わり等、主として生化学的な観点から学ぶ。
		微生物学	近年、院内感染や新型インフルエンザなどが社会的にも大きな問題となっているように、感染症に関する知識は、看護師にとってもますます重要度を増している。本講義では、感染症を引き起こす細菌、真菌、ウイルス、寄生虫等について、どのような種類があるのか、それらの病原性、感染時の症状・治療や予防対策について学ぶことによって、感染症に対し、科学的根拠に基づいた対応・対策を行うための基礎知識を修得することを目指す。
		人類遺伝・発生学	ヒトの遺伝子の解明が進み、疾病と遺伝子の関係が明らかになったり、遺伝子検査や遺伝子治療が行われるようになってきた今日、そうした問題を抱える患者のケアや、遺伝に関する相談に応じられる知識などの重要度が増してきている。本講義では、そうした遺伝看護の基礎となる遺伝・分子遺伝の知識を学ぶ。また、母性看護学の基礎となるヒトの発生についての理解を深める。いずれも基礎的事項を確実に習得することを目指す。
		免疫学	一度かかった病気に二度目はかからないか、かかりにくくなることを一般に免疫と言うが、ヒトの体には微生物などの外来異物を認識し、それらを排除するしくみが備わっている。免疫学では、広くヒトの持つ生体防御機構について学ぶ。本講義では、生体防御に働く細胞・組織にはどのような物があるか、非特異的免疫に比べて特異的免疫はどのような特徴があるか、液性免疫と細胞性免疫の違い、免疫反応の調節機構、免疫の異常と疾患、等を知りヒトの生体防御機構への理解を深める。
疾 病 と 治 療	医学概論	看護師を目指し、これから医学を学ぶ出発点として、医学とは何か、医学をどのように学ぶのか、医学はどのように発展してきたのか、医学の今日的な問題や将来への課題について知る。また、人間の生命をどのようにとらえるか、健康や病気とはどのような状態か、病気の診断・検査・治療がどのように行われているのかを理解する。医学の本質を十分に理解し、看護と医学の関わりや看護の意義について考える。	
	病理病態学	病理病態学は解剖生理学で学んだ人体の正常構造・機能に立脚し、病的状態とはどのような状態か、何が原因で発症するかを学ぶ。先天異常・代謝障害・循環障害・炎症・腫瘍といった病変を理解し、消化器、呼吸器、循環器、運動器、泌尿生殖器、神経、内分泌、造血、皮膚、感覚器の主要な疾患を学ぶことで、基礎医学から臨床医学へとつなげていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 本 科 目 疾 病 と 治 療	診断治療学Ⅰ(内科系)	内科診断学(問診の仕方、記録の仕方、重要な疾患やありふれた疾患に見られる症状と徴候、その基になる病態生理等)を理解させる。重要な生化学・生理学的検査、画像検査等の実施目的や方法の概略、検査の必要性の判断、検査実施上の注意、検査結果の見方等の概略を理解させる。感染症、膠原病、アレルギー疾患、自己免疫疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患、血液・造血器疾患、腎・泌尿器疾患、中毒・物理的原因による疾患、生活習慣病、難病等について、その病態生理、疫学、症状と徴候、診断法、治療法、予後等について概説する。	
	診断治療学Ⅱ(外科系)	(概要) 診断治療学Ⅱでは代表的な外科系疾患について学ぶ。外科侵襲に対する生体反応と、それに対する術前・術後の対策、術後管理、合併症を理解し、消化器・呼吸器外科疾患、脳外科疾患、心臓外科疾患、整形外科疾患、感覚器系(眼科・皮膚科・耳鼻科)疾患の原因・病態・診断・治療について学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (52 八木 雅夫/4回) 医学・医療における外科治療学、外科侵襲と生体反応、創傷治癒の機序、創感染と予防、消化器の外科について学ぶ。 (60 谷 卓/4回) 呼吸器、脳・神経、循環器、運動器、感覚器の疾患について、その原因・病態・診断・治療について学ぶ。	オムニ バス方 式
	診断治療学Ⅲ(周産期)	診断治療学Ⅲでは、周産期にある女性の身体的特徴と生理的变化を理解し、異常あるいはハイリスクな状態(流産、早産、子宮外妊娠、前置胎盤、胎位の異常など)にある妊産褥婦の疾患や、女性の生殖器疾患の原因・病態・診断・治療について学ぶ。	
	診断治療学Ⅳ(小児)	新生児そして小児に特有の疾患を中心に、神経、循環器、呼吸器、感染症、消化器、代謝内分泌系、血液・腫瘍・免疫疾患の特徴と、それらの原因・病態・診断・治療について学ぶ。また、不慮の事故、児童虐待、発達障害や障害児医療等と小児を取り巻く環境について学習、理解する。授業は知識のつめ込みでなく、「なぜ」「どうして」と、疑問や思考過程を取り入れて進める。	
	診断治療学Ⅴ(精神)	精神健康の基礎知識および精神障害を有する人のケアに必要な精神医学の基礎知識を習得する。また、精神障害者の人権尊重と倫理的配慮を習得する。(1)定義と診断・分類(2)精神症状(3)脳と精神機能(4)検査(脳波、画像検査心理検査)(5)各論(統合失調症、気分障害、老年期精神障害、器質性精神障害、発達障害、アルコール関連障害、薬物依存、神経症性障害、摂食障害・睡眠障害、人格障害、てんかん等)(6)治療(7)精神保健福祉法、医療観察法(8)社会復帰とリハビリテーション、について学ぶ。	
	臨床栄養学	本講義では、栄養素の種類とその役割、食物に含まれる栄養素や食事摂取基準、ライフステージの各段階における栄養摂取の考え方と栄養状態の判定法を学び、生活習慣病の予防や治療になぜ栄養指導が必要なのかを理解する。また、いろいろな疾患(糖尿病、高血圧、消化器疾患、腎疾患等)における食事療法・栄養指導の実践を学び、入院患者に対する栄養管理や、食習慣改善・健康増進のための栄養指導に必要な知識を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 本 科 目 疾 病 と 治 療	臨床薬理学	本講義では看護専門職に必要な薬理学の知識を学ぶ。薬はどのようにして効くのか、どのように投与するのか、投与した薬はその後どうなるのか、医薬品の安全性と副作用、薬剤の管理と取り扱い等を知る。さらに、各種疾病の治療に用いられる代表的な薬物にはどのようなものがあるか、その特徴、作用機序、副作用などについて学ぶ。	
	リハビリテーション概論	リハビリテーション概論では、リハビリテーションの歴史と理念、およびその仕組みについて教授する。具体的には、リハビリテーションの定義、歴史、目的を概説した後、障害分類、医療従事者とチーム、関係法規・保健医療福祉行政、医学的、社会的、教育的、職業的、工学的リハビリテーション、地域リハビリテーション等について、諸外国のリハビリテーションと比較して概説する。また、病期に合わせたリハビリテーションを整理し、その特徴を解説する。	
	臨床心理学Ⅰ	臨床心理学は、人間の心の問題について、心理学的人間理解と心理学的援助技法を用いて、対象者の心理的適応や発達を促進し、自己実現を支援していくという実践的な学問です。臨床心理学Ⅰでは、基本理論を概説し、心理的な問題を理解するためのアセスメントについて学習します。アセスメントのためのデータの収集技法と分析技法について学びます。発達段階の違いや被った障害によって異なる心理的問題について理解を深めることを目標とします。	
	臨床心理学Ⅱ	臨床心理学Ⅱでは、臨床心理学Ⅰで学んだことを基礎として、心理的問題に介入する理論モデルと介入技法について学習します。臨床心理学は多くの理論的立場と技法から成り立っています。その中のおもな理論について概説し、心理学的人間理解の方法について理解を深めます。心理的援助のための個人療法および集団療法の介入技法について基礎的な学習をします。さらにコミュニティにおける相談活動の実際についても学びます。	
	心理学	行動の科学としての心理学について、どのような研究が行われ、どのようなことが明らかにされてきたかについて学んでいく。認知、記憶、学習、コミュニケーション、集団、生理心理、比較心理等の各研究分野の成果について、簡単な心理テスト・実験等を交えて学び、心理学に関する基礎的理解を深める。そして、心理学を生活の中で生かす方法についても考えていく。	
	カウンセリング演習	看護師が活動する場面では、人と人とのかかわり、コミュニケーションが非常に重要になってきます。コミュニケーションは言語的なやり取りだけでなく、非言語的な要素を読み取ることが非常に重要です。カウンセリング演習では、コミュニケーションスキルを含むカウンセリングの基礎について学習を行います。そして、看護現場でも活用できる基礎的なカウンセリングの技術をロールプレイなども交えて学んでいきます。	
	高齢者の心理	発達とは、個体発生の過程における比較的永続的な変化であるとされる。また、成長、成熟、老化等は発達の变化の一部と考えられる。ここでは、発達過程全般の理解を基礎として、高齢者の特性について理解していく。そして、高齢化にともなう心理的特性、身体的特性の変化等に関する基本的な事項を理解し、基礎的な知識について学ぶとともに、様々な事例への対応についても考えていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
疾病と 治療	障害者の心理	障害に関して理解するためには、自分自身との共通点にも注目することが重要と考えられる。ここでは、障害のある人達の心理的特性に関する基礎的知識について学び、障害のある人達の体験に関する理解を深めていく。そして、障害のある人達の家族の支援や、環境の整備等を含めた、様々な事例への対応についても考えていく。	
	安全管理	看護師が活躍する医療等の現場での安全管理は、職務内容の専門性の高さ、人間という対象の複雑さ（個人差、短時間での状態変化）、多くの職種の人に関与する状況等から特異性があるともいわれる。ここでは、看護師に求められる安全管理の重要性、エラー・事故等の発生の要因、安全管理に必要な事項、その実践方法等を中心に学ぶ。	
	感染防御	看護師が活動する医療等の現場では、施設内感染の複雑化が進行しており、感染防御の取組が重要となっている。看護師は、患者、施設利用者等の感染の媒体となることを防ぐと共に、自身が感染することを防ぐ必要がある。ここでは、細菌・ウイルス等による主要な感染症、感染の要因・経路、感染防御の具体的方法等について学ぶ。	
専門 基本 科目	保健医療概論	医学と医療の違い、医の倫理、ヘルシンキ宣言とインフォームドコンセント、患者の権利、カルテ記載と保存、情報公開制度、守秘義務等について理解させる。また、我が国の保健医療制度の利点と問題点、医療の中における看護の役割、について学び、良き医療人とは、病める人にとって必要な医療とは何かを考察する。	
	保健医療制度論	我が国の社会保障制度のうち、本講義では保健・医療に関する制度を中心に学ぶ。公的医療保険や介護保険制度が我が国の医療を大きく規定しているが、こうした制度のしくみ、成立過程、現状及び課題、将来の展望、関連する法を学び、その中における看護職の役割を考察する。	
	社会保障制度論	社会保障の基本的考え方、我が国における社会保障制度の歴史、現行の社会保障制度の現状およびその課題、社会保障に関する法律と制度、社会保障における行政の役割と財政上の問題等、社会保障制度の基本的知識を学習する。	
	石川県・白山市の保健医療事情	看護師を目指す者として、地域の保健医療が置かれている現状や課題について知ることは大切である。そのため本講義では、本学の位置する石川県・白山市の保健医療について、地域の保健医療の特色、現状と課題について学び、地域に対する視点を養う。石川県の医療、看護を全国と比べて理解し、白山市の保健医療施策と将来計画について知る。そして白山市の医療と白山石川医療企業団について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基本科目	看護関係法規	看護師は、医師をはじめ他の医療従事者と連携協力して患者の健康、生活や人権を守っていかねばならない大きな使命をもつ。本講義ではまず、看護職者の資格や業務を定めた法律である保健師助産師看護師法を学び、看護職者の法的責任について理解を深める。その上で、関連する職種や医療・福祉に関する法を学ぶことで、医療に従事する様々な職種の役割に関する法律上の規定を理解し、その中において看護師の果たす責務とは何かを考察する。	
	公衆衛生学	公衆衛生学は、個人ではなく人の集団を対象とし、健康の保持増進、疾病予防と早期発見等を推進する学問である。本講義では、公衆衛生学の基本概念を理解し、公衆衛生学の発展経緯を知り、プライマリヘルスケア、人間と環境、ヘルスプロモーション等の概念を学んでその重要性を理解する。	
	疫学・保健統計入門	疫学は人間集団における疾病の分布とそれを規定する様々な因子を解析することにより、たとえば病気の感染源を特定したり疾病を予防したりするための基本的な方法論である。本講義ではこうした疫学の基本概念を知り、それに用いる統計理論や計算方法、統計資料の読み方を学ぶことで、今後の学習や卒業研究、看護現場で遭遇する問題の解決に必要なとなる調査の基本を理解する。	
	社会福祉概論Ⅰ	社会福祉の理念と意義をはじめ、社会福祉の主体、対象、歴史的展開について扱い、さらに社会福祉援助の具体的な形態と方法および社会福祉援助活動における専門性と倫理などについて扱う。	
	社会福祉概論Ⅱ	社会福祉関係法制と実施体制および財政全体の概要をはじめ、社会福祉の分野と社会福祉士、介護福祉士および保育士の専門性と役割について、さらに、社会福祉をめぐる日本および諸外国の動向と課題について扱う。	
専門 展開科目	看護概論	本講義では、看護を初めて学ぶ学生を対象に、看護とは、看護職とは、看護の対象は、健康とは、看護提供のしくみは、看護過程とは、といった、これから看護を学ぶための出発点となる諸概念を提示し、看護と看護学に対する興味・関心を持たせるとともに、学生自らが看護について深く考え、理解するための基盤とする。	
	看護理論	看護の先行研究とクリティーク、看護理論との関連性について探求する。看護理論は看護実践の裏付けとなる考え方の枠組みを示すものであり、代表的な看護理論の歴史的変遷と発展から、看護・人間・健康・環境といった看護学に共通する基礎的概念を理解することによって、科学的な思考を基盤とした看護実践の基礎を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 展開 科目 基礎 看護 学	看護倫理	看護専門職を目指す看護師が身につけておくべき、また医療の現場で生じるさまざまな問題を解決するためのよりどころとなるのが医療倫理である。医療過誤などの問題をうけ、現在の看護師国家試験においても医療倫理の分野からの出題が義務化されていることから看護倫理に関連することを修学する。	
	看護情報論	これからの看護師にとって、ICT(Information and Communication Technology)に関する知識は不可欠と言える。そこで本講義では病院の医療情報システム(電子カルテやオーダーリングシステム等)から個人用の情報ツールまで、様々な情報機器を例に、それらを扱う技術だけでなく、情報とは何か、看護現場ではどのような情報を扱うか、情報の保護と公開、看護情報を扱う態度(特に倫理や患者の権利に関して)等についても学び、看護実践につながる情報処理能力の習得を目指す。	
	基礎看護学方法論	基礎看護学方法論では、看護の技術とは何か、対象者とのコミュニケーションをいかにとるか、対象者の観察・情報収集によりヘルスアセスメントを行う技術、そこで得られた結果を基に看護を計画的に展開する技術等を学び、看護過程に沿った看護実践の流れを理解することによって、あらゆる看護対象に共通して必要な援助技術について、科学的根拠に基づいた看護実践の基礎となる知識を身に付ける。	
	基礎看護学方法論演習Ⅰ	基礎看護学方法論演習では、様々な看護対象に広く適用できる、看護実践能力の基盤となる技術を演習を通して身に付ける。基礎看護学方法論演習Ⅰにおいては、感染防御の基本となる手洗い、ベッドメイキングなど病床環境の整備、体位変換や移動の援助、清潔保持の援助、睡眠や休息の援助、食生活の援助、排泄の援助といった、看護実践上の基本となる日常生活援助に関する基本技術や医療従事者としての基本的態度を学ぶ。	共同
	基礎看護学方法論演習Ⅱ	基礎看護学方法論演習Ⅱでは、基礎看護学方法論で学習した知識のうち、フィジカルアセスメントや診療の補助技術について学内での実践を通して体得する。フィジカルアセスメントは看護過程において科学的根拠に基づいた看護計画立案に重要な知識・技術であるため、解剖学および生理学の内容を活用しながらの展開となる。診療の補助技術については、治療に直接関わる技術であるため、リスクマネジメントの重要性も踏まえて教授する。	共同
	基礎看護学実習Ⅰ	病院の機能を成り立たせる各部門を見学し、それらの機能と相互の連携を理解すると共に、健康に障害を持った人がどのような過程で病院と関わり、その後、他の療養機関や自宅へと移っていくのかを知り、そうした過程における看護職の役割を学習する。また、看護援助場面的一端を体験して、対象者との基本的なコミュニケーションや個人情報の秘密を守る等の基本事項を学ぶと共に、これからの看護学習に対する動機付けとする。	
	基礎看護学実習Ⅱ	健康に障害を負って病院で療養生活を送っている人たちとコミュニケーションを取り、対象者の情報を集めて判断し、看護計画を立案・実施し、結果を評価するという一連の看護過程を展開する中で、すべての看護に共通する基本的な技術に習熟し、チームの一員として行動する態度や、倫理を含めた基盤的な看護実践能力を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 展 開 科 目 成 人 看 護 学	成人看護学概論	人のライフサイクルの中で、成人期は成熟から老化に向かうまでの、幅広い年齢層であり、社会的にも充実した時期である。こうした成人期の特徴を知り、成人期における生活習慣と健康課題、健康障害の特徴を理解する。そして様々な健康レベルにある人と、その家族に対する成人看護の役割と機能を学ぶ。	
	成人看護論Ⅰ(健康期)	成人を取り巻く社会等の環境を理解し、それが健康とどのように関わっているかを学ぶ。また、成人の生活様式(ライフスタイル)と生活環境を多角的に捉え、健康との関わりを理解する。その上に立って、成人期にある人とその家族の健康生活を維持・向上させていくために必要な諸理論および概念に基づく看護援助のあり方を学ぶ。	共同
	成人看護論Ⅱ(急性期)	危機状況にある人を理解するための諸理論(危機理論、ストレス・コーピング理論など)を系統的に学び、それらを基盤にして複雑かつ急激に変化する生命を脅かす健康問題をもつ患者・家族に対する心理社会的側面を理解する。さらに理論を応用し援助方法に関する論文、事例の分析を行い危機的状況にある人への専門的な援助方法について探求する。	共同
	成人看護論Ⅲ(回復期)	回復期にある対象者とその家族に関わる問題を知り、社会復帰に向けて、日常生活動作の自立を促すための看護援助の方法を学ぶ。また、対象者とその家族が疾病や障害の状況を理解し、回復への意欲を持ってリハビリテーションに取り組むための支援ができるよう、リハビリテーションにおけるチームアプローチの意義と、チームにおける看護師の役割を理解する。	共同
	成人看護論Ⅳ(慢性期)	慢性疾患を持ち、疾病と向かい合って生きる成人期の人々やその家族が置かれている身体的・社会的・心理的状況を知り、長期にわたるセルフマネジメントの必要性和困難さを理解した上で、慢性疾患を持つ患者やその家族に必要な看護の方法を学ぶ。また、成人期にある人々の慢性疾患の予防に向けて、成人のライフスタイルがもたらす健康障害と適切な援助方法について理解する。	共同
	成人看護論Ⅴ(終末期)	死にまつわる文化的・倫理的課題や日本人の生死観の特徴を理解し、その上に立って、終末期にある人の身体的・心理的・社会的状況を知り、全人的苦痛を理解し、その人らしい生き方を尊重した看護援助の方法を学ぶ。また、終末期看護の歴史やホスピス、終末期にある人の家族・遺族へのケアを理解する。	
	成人看護学演習Ⅰ	成人看護学演習Ⅰでは、急性・回復期にある対象者に対する成人看護に必要な基礎的看護技術について、演習を通して学ぶ。主要な手術を受ける・あるいは急性に推移する疾患を持つ患者の事例を通して、健康障害をアセスメントし看護上の問題の明確化、適切な看護援助を計画立案する。そのために必要な知識や技術を習得し、思考プロセスを養い、健康の回復過程が順調に進むように支援することができる能力を習得する。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
成人 看護学	成人看護学演習Ⅱ	成人看護学演習Ⅱでは、慢性・終末期にある対象者に対する成人看護に必要な基礎的看護技術について演習を通して学ぶ。慢性疾患を抱える対象者の病態や検査・治療の目的、慢性疾患を抱える対象者に特有な心理状態を理解し、対象者が自己管理能力を高めるための看護を学ぶ。また、終末期にある対象者とその家族の特徴を理解し、看護援助の方法を学ぶ。	共同
	成人看護学実習Ⅰ	成人の特性を理解し、急性・回復期にある対象者とその家族への看護援助の方法を学ぶ。手術を受ける・あるいは急性に推移する疾患を持つ対象者を受け持ち、個々の対象者や疾病の特性に合わせた看護過程を展開する実践能力を習得する。また、対象者を尊重、その権利を擁護し、看護チームの一員として、チーム内・他職者との協調的な態度を養う。	
	成人看護学実習Ⅱ	成人の特性を理解し、慢性・終末期にある対象者とその家族への看護援助の方法を学ぶ。慢性に推移する、あるいは終末期にある対象者を受け持ち、個々の対象者のセルフケア能力を支援し、あるいはその人らしい人生を全うできるように、看護過程を展開し実践能力を習得する。さらに対象者やその家族の置かれている状況を理解し、その援助方法を知ると共に、保健・福祉・医療チームにおける看護の役割を理解する。	
専門 展開 科目	高齢者看護学概論	加齢に伴う高齢者の身体的・精神的・社会的変化を知り、高齢者に生じやすい健康問題を理解し、地域社会で生活・療養する高齢者とその家族・介護者を支援する高齢者看護の役割を学ぶ。また、高齢化社会に伴う法や制度の整備等、社会的課題を理解する。	
	高齢者看護学	<p>(概要) 高齢者の家庭や社会における役割・高齢者の特徴を踏まえたアセスメント、高齢者の日常生活を支える看護、高齢者によく見られる疾患と支援方法を学習する。さらに、高齢者看護の倫理的課題、高齢者の生活を支える保健・医療・福祉システムとケアにおける専門職の連携について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 林 稚佳子/12回)</p> <p>高齢者の健康の維持・増進、健康障害からの回復に向けた援助、及び終末期を含む看護について、基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。具体的には高齢者の特徴をふまえた疾患と援助方法・その根拠について学習する。さらに老年期にある対象者の価値・信念に基づいた援助について理解し、高齢者看護の倫理的課題、高齢者の生活を支える保健・医療・福祉とケアにおける専門職の連携について理解する。終末期にある高齢者とその家族の特徴とケアについて理解する。</p> <p>(⑧ 下田 裕子/3回)</p> <p>心身機能低下(認知機能、感覚機能、排泄機能)が高齢者の日常生活に及ぼす影響を理解し、機能の維持・改善に向けた看護援助について理解する。</p>	オムニ バス方 式
	高齢者看護学演習	高齢者看護学演習では、高齢者に起こり易い健康問題を理解した上で、さまざまな健康レベルにある高齢者の事例を活用して、高齢者の特徴を踏まえたアセスメントや、看護計画の立案から実施までの看護過程をグループワークや演習形式で学ぶ。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
高齢者看護学	高齢者看護学実習Ⅰ	老年期にある対象者の特徴を学び、多様な高齢者施設に入所している高齢者やその家族の課題を知り、各施設の目的に基づいた看護師の専門的役割と他職者との連携を理解し、高齢者の尊厳を支え、(療養)生活の質の向上を目指したケアプランを立案・実施・評価することができる看護実践能力を習得する。	
	高齢者看護学実習Ⅱ	健康上の問題を抱え病院に入院している高齢者との援助的関係を構築し、高齢者特有の疾患や、リハビリテーション等を学ぶ。個々の高齢者を身体的・生活的・精神的側面からアセスメントし、これまでの人生を尊重して、持てる力と権利を擁護する視点と退院後の生活を考えた視点を視野に入れた看護過程展開能力を学習し高齢者看護特有の実践能力を習得する。	
専門展開科目 小児看護学	小児看護学概論	小児看護の対象と理念を理解する。小児の成長・発達や生活の特徴を理解し、小児期に生じやすい健康問題とその支援について学ぶ。また、子どもを取りまく保健・医療・福祉・教育の状況、子どもの権利や、子どもと家族の関係への理解を深め、子どもの成長・発達、疾病の予防・回復における看護職の役割を考察する。	
	小児看護論	(概要) 本講義では、小児各期の特徴を理解し、小児の健康な成長・発達を促すために必要な援助方法を学ぶ。また、小児看護に必要な概念を理解し、さまざまな健康状態の子どもと家族に対して適切な看護援助を行うための基礎知識を身につける。さらに、小児看護の特性を理解し、チーム医療の中での看護職の役割を考察する。 (オムニバス方式/全15回) (14 樋貝 繁香/12回) 小児各期の成長・発達や生活の特徴を理解し、小児の健康な成長・発達を促す援助方法を学ぶ。小児特有の疾患や特定の状況における子どもと家族への看護を学習し、看護職の役割を理解する。 (24 境 美砂子/3回) 急性期にある子どもと家族への看護(子どもによくみられる症状やトリアージ、救急蘇生)について学ぶ。	オムニバス方式
	小児看護学演習	小児の成長・発達や生活、小児期にみられる多様な健康問題、子どもと家族の関係を理解し、子どもとのコミュニケーションや子どもの成長・発達、健康状態をアセスメントする方法や看護過程の展開など、子どもと家族のニーズに対応した援助技術についてPBL(Problem Based Learning)の学習形式によって学ぶ。	共同
	小児看護学実習	保育施設の健康な子どもとの関わりを通し、子どもの日常生活を観察・記録し、子どもの行動特性や成長・発達を支援する方法を理解する。さらに、健康上の問題をかかえ、病院や施設で暮らす子どもと家族に対する援助ニーズをアセスメントし、看護過程を展開する基盤的実践能力を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 展 開 科 目	母性看護学概論	女性・家族・社会の視点から母性を総合的に捉え、リプロダクティブヘルス・ライツの概念に立脚し、女性のライフサイクルを通して母性が健全に発揮できるために、母性看護が果たす役割と課題を学ぶ。	
	母性看護論	<p>(概要) 妊娠期・分娩期・産褥期にある女性と新生児の生理的变化と病態を理解し、母子およびその家族の健康を保持・増進し、疾病を予防とハイリスクな妊婦・新生児への対処、新生児の母体外環境適応過程や母児関係確立・家族役割構築を支援するために必要な知識と技術を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 永山 くに子/8回) 妊娠期、分娩期および産褥期にある女性と新生児の生理的变化と、病態を理解し、妊婦、産婦、褥婦、および新生児のケアに活かす。</p> <p>(7 島田 啓子/7回) 母子およびその家族の健康を保持、増進し、疾病を予防とハイリスクな状況にある対象に適切に対応するために必要な基本的知識・技術を修得する。</p>	オムニ バス方 式
	母性看護学演習	母性看護学演習では、マタニティサイクルにある女性とその家族、新生児を支援するために必要な知識を学び、様々な事例を通して、出産と家族への理解を深め、母子看護過程を展開し、妊婦・褥婦・新生児に対する看護実践に必要な技術と態度をPBL(Problem Based Learning)を活用して身に付ける。	共同
	母性看護学実習	周産期にある看護対象者に特有な課題を理解し、母子やその家族との関わりを通して、妊娠・産褥期にある母子へのケアに必要な知識・技術・態度を学ぶ。また、母子の健康維持・増進、異常の発見・回復、褥婦と新生児・家族の関係、等を援助するための基盤的な看護実践能力を習得する。	
	精神看護学概論	心の健康と健康に影響を及ぼす要因について知り、心に健康問題を持つ人の社会生活上の困難や課題を理解し、そうした人々が社会の中で自立的に生きるためにはどのような環境が必要か、そのために看護者がどのような役割を果たせるかを学ぶ。	
精神看護学	精神看護論	本講義では、精神機能とその疾患について知り、精神状態のアセスメントの方法や、主要な精神疾患とそれに対するケアを学ぶ。また、精神看護に活用する理論やモデルについて学び、対象者に必要とされる精神的看護援助とは何かを考え、人的・物理的感情へ働きかける看護援助技法を理解する。さらに、精神医療保健福祉に関する歴史と現状を知り、疾患の発生によって生じる生活上の困難や課題を理解するとともに、精神疾患を持つ人やその家族に対して、看護が果たす役割と課題を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
精神看護学	精神看護学演習	精神看護学演習では、様々な事例をもとに、PBL(Problem Based Learning)形式の学習によって、精神疾患を理解し、対象者との治療的援助関係を構築し、様々な精神疾患や生活障害に対する看護の実際を学ぶと共に、そこで生じる人権や倫理に関する問題についても理解を深め、精神看護の基礎となる技術や態度を身に付ける。	共同
	精神看護学実習	精神に障害を持つ看護対象者や、それを支える家族の課題を理解し、個別性のある具体的な看護の展開を通して、対象者の社会復帰を支援する看護実践能力を習得する。また、チーム医療の中での看護職の役割を学ぶと共に、対象者をとりまく社会的背景を理解し、精神障害者の尊厳と権利を守る態度を養う。	
専門展開科目	在宅看護学概論	近年の少子高齢化の進展や医療を巡る状況、人々の意識の変化によって、在宅療養のニーズが増加し、在宅看護に大きな期待が寄せられるようになってきた。本講義では在宅看護が必要とされる社会的背景やその対象を知り、在宅療養する個人とその家族の健康問題と生活ニーズに対する理解を深め、在宅看護の役割と課題、在宅看護を支える制度と社会資源について学ぶ。また、地域のケアシステムや社会資源を理解し、その中における在宅看護の機能や多職種連携の意義について理解を深める。	
	在宅看護論	<p>(概要) 地域で暮らす療養者とその家族の特徴や生活課題、家族による介護の状況を踏まえた在宅看護の実践が求められている。そこで本講義では訪問看護の制度や目的、訪問看護ステーションの活動、その中における看護師の役割を理解し、医療的管理を必要とする在宅療養者、及び回復期・慢性期・終末期にある在宅療養者の看護を実践するために必要な知識・技術、保健医療福祉チームにおける看護の展開を講義形式で学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 彦 聖美/12回) 療養者とその家族を在宅看護の対象者として捉え、対象者に応じた看護を実践するために、訪問看護ステーションや在宅看護過程、医療管理を必要とする人や終末期にある療養者の在宅看護などを学ぶ。</p> <p>(⑦ 浅見 美千江/3回) 療養者とその家族を在宅看護の対象者として捉え、対象者に応じた看護を実践するために、在宅リハビリテーションや高齢者の在宅看護などを学ぶ。</p>	オムニバス方式
	在宅看護学演習	在宅看護では多様な疾患や障害を持つ幅広い年齢層の人々が対象となる。在宅看護学演習では、様々な疾患に対する在宅看護の事例をもとに、看護対象者や地域の事情を尊重し、相互の信頼関係を構築し、対象者の疾患と在宅という特性に応じた看護を実践するために必要な知識・技術・態度を演習形式で学ぶ。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
在宅看護学 専門展開科目 看護の統合と発展学習	在宅看護学実習	在宅療養を必要とする対象者およびその家族の特性と生活ニーズを理解し、そうした対象者に対する看護計画を立案・実施できる実践能力を習得する。また、地域社会の保健・医療・福祉との連携を理解し、その中における看護職の役割を学ぶと共に、南加賀地域の在宅療養の現状を知り、訪問看護ステーション等の活動の実際を学ぶ。	
	統合実習	看護学習の集大成として、これまでに学んだ知識・技術の上に立って、自らの学習を振り返り、不足点を補うと共に、これから生涯にわたる学習の基礎となる課題を自ら設定し、それに合った実習先を選択する。看護対象者を理解、尊重し、看護チームの一員としての役割と責任に配慮しつつ、根拠に立脚し、対象者の個別性・安全性を踏まえた自律したケアを実践できる能力を習得する。	
	看護管理論	看護管理とは、対象者により良い看護サービスを提供していくために、看護組織を運営する過程である。本講義では看護組織の一員として理解しておく必要がある組織論・管理論・リーダーシップの基礎を学び、看護現場における実際の管理について理解する。	
	看護教育論	これまで、社会の進歩と医療の発展によって、求められる看護師像は変化してきた。それにともない、看護教育の理念・目標や国の看護教育制度も変わってきている。また今日では、看護師養成だけでなく、卒後の継続・生涯教育としての看護教育も重要度を増している。本講義ではこうした看護教育の歴史的変遷と今日的な課題を学ぶと共に、学生各自がどのような看護教育が望ましいかを考える機会としたい。	
	チーム医療論	現在、医療の現場では、看護職は、医師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、理学・作業療法士など、多くの職種と連携・協働し、さらに保健・福祉担当者も加わって、統合的な医療を提供する事が求められている。本講義では、こうしたチーム医療の概念やチーム医療に関わる専門職の役割・機能を理解し、実際にどのようなチーム医療が行われているかを知ることにより、職種間のコミュニケーションに基づく連携・協働のあり方を学ぶ。	
	チーム医療演習	今日、良質の医療を提供するためには、様々な専門職がチームとして連携・協働することが不可欠になっている。本演習ではチーム医療に必要な知識・技術・態度をPBL(Problem Based Learning)を活用して身に付ける。まず前半で、チーム医療を構成する専門職についての理解を深めた後、後半では実際の症例をとりあげ、各専門職がどのような役割をもってチーム医療に貢献するか、チームの一員としてのあるべき態度や多職種とのコミュニケーションについて討議することで、チーム医療の重要性を理解する。	共同
	地域と看護	在宅療養者や何らかの健康問題を抱える高齢者の増加等によって、これからの看護師には看護の対象として個人のみならず、広く地域やそこでの生活を捉える視点が求められている。本講義では地区踏査や既存資料の活用によって、看護の視点から地域の特徴をアセスメントし、そこにある健康問題を把握すること(地域看護診断)の意義とその方法を学ぶ。また実際にそれを白山市に適用することで、都市部と山間部で大きく異なる地域の特徴やそこに住む人々の健康ニーズへの理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護 の 統 合 と 発 展 学 習 専 門 展 開 科 目	災害看護論	人は常に自然がもたらす脅威に対峙し、人々の命や健康を守るための対策を講じ、さらに文明の発達とともに増加してゆく人的災害にも対応してゆく必要がある。そこで、災害発生の直後から支援できる看護の基礎から実践まで網羅し、学生が理解しやすい内容を提供する。	
	国際看護論	看護が直面する国際的な問題を理解するため、看護における国際協力に果たす国際機関（世界保健機関、国連難民高等弁務官事務所、国連児童基金など）の役割や、国際看護・保健活動（発展途上国、難民キャンプ、災害地などにおける）の概要や我が国の貢献について学ぶ。また「国内の国際看護」として、異文化への理解と共生の観点から、在日外国人に対する看護支援の在り方を考える。	
	看護学研究法	<p>（概要）本講義では看護における研究の意義や目的を理解し、そのために必要な方法を学ぶ。なぜ研究が必要なのか、研究課題をどのようにして選ぶか、先行研究を学ぶ必要性、いかにして文献を集めるか、研究における倫理的な問題、代表的な研究方法にはどのようなものがあるか、いかにしてデータを収集し解析するか、等を学び、研究計画書の作成、論文の構成やプレゼンテーションの方法について理解するとともに、主体的に研究に取り組む能力を養う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>③ 高山 成子／4回 看護研究の意義・目的、看護における研究課題の選択、看護研究における倫理について学ぶ。</p> <p>⑥ 吉岡 一実／4回 看護研究の方法、特に質的及び量的研究の種類と特徴、データ解析について学ぶ。</p> <p>⑤ 一ノ山 隆司／4回 文献の収集方法、研究計画書の作成、調査をどのように行うか、得られた結果のまとめ方について学ぶ。</p> <p>⑱ 東 知宏／3回 実験研究について、結果発表の方法（特に論文の書き方とプレゼンテーションの方法）について学ぶ。</p>	オムニ バス方 式
	看護英語	これからの看護現場において、英語を使って外国人の患者と必要なコミュニケーションをとることができる能力は、ますます重要になると考えられる。また薬品や医療用具の注意書きなど、英語で書かれた看護・医療に関する情報を正しく理解できる能力も、今後必要となるであろう。そこで本科目では、そのための基礎となる英語力の獲得を目標に、医療・看護で使われる基本的な語彙を知るとともに、それらを使った表現・会話を学ぶ。	
	卒業研究ゼミ I	卒業研究ゼミ I では、指導教員毎の少人数ゼミ形式で、卒業論文に取りかかるための準備学習を行う。各自が興味ある現象の中から、卒業研究のテーマを設定し、ゼミでの発表・討論や指導教員の個別指導を重ねることによって、先行研究や必要となる方法論を学習し、研究計画を立案できる能力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 展開 科目	看護 の 統合 と 発展 学習	卒業研究ゼミⅡ	
	卒業論文	卒業研究ゼミⅡでは、指導教員毎の少人数ゼミ形式で、卒業論文をまとめるための学習を行う。発表や討論を重ねることにより、各自の研究における問題点を抽出し、課題を明らかにし、それらを解決するための科学的アプローチを理解し、実践するなかで、卒業後の生涯学習にも必要な主体的問題解決能力を身につける。	
		これまで学内・外で学んだ看護に関連する理念・知識・技術等を基礎として、各自が研究課題を設定し、研究計画を立案し、データを収集・分析する。得られた知見をもとに卒業論文をまとめることによって、4年間の学習の集大成とする。	